



< サンタさんとの約束 >



かりんちゃんの家には、毎年サンタさんがやってきます。そして、かりんちゃんの手紙をサンタさんに渡し、約束するのはお父さんの役目です。一昨年はゲーム、昨年はローラーシューズ。毎年思い通りのプレゼントをサンタさんにもらっているかりんちゃんの今年のお願いは、なんと「豆柴」。あまり大きくならない柴犬だそうです。来年は戌年だというわけでもないのに、どうしても犬が欲しいかりんちゃんは、お父さんと一緒にインターネットでいろいろ調べてみました。基本20万円くらいで、どんなに安くても軽く10万円以上します。青ざめるお父さんに対して、かりんちゃんはかわいい豆柴の写真を見て、大いに盛り上がっています。「絶対サンタさんをお願いして、一生懸命世話する！」と言っています。でも、お父さんにとっては、お金のことはもちろんのこと、最近の流行りのように小さな犬を室内で飼うなんてこと自体、考えられないことなのです。犬というものは、きちんと庭につながれていて、番犬となり、雪が降ったら、喜んで庭を駆け回るものだと断固として信じているのです。



インターネットの画面を見ながらフリーズしてしまったお父さんに、かりんちゃんはさらに言いました。「お父さん、犬小屋作れるん？」もしかしたら犬小屋がないという理由であきらめてくれるかもしれません。「う～ん、材料とかがきちんとならね。でも、難しいかもしれんね」お父さんは少しだけ顔がほころびました。でも、かりんちゃんは、こう続けたのです。「じゃあ、犬小屋もサンタさんをお願いしてあげてね！お父さん、手紙渡してちゃんと約束してよ！」うれしそうにサンタさんをお願いの手紙を書いているかりんちゃんを見ながら、お父さんはどんどん血の気が引いていくように感じました。

さて、クリスマスイブは刻一刻と近づいてきます。「デジカメしかいらん」とか、「音楽をダウンロードできるウォークマン」などとたわごとを抜かず、おっきい姉ちゃんやまん中の姉ちゃんの見解は、簡単に無視できても、かりんちゃんは、お父さんにではなく、サンタさんをお願いしているのだから、それをお父さんが無視することはできません。「犬がいたらなかなか旅行にも行けなくなるけど、それでもいいの？」「お父さんが家の中には入れんって言うてるから、冬は寒い中、外にいさせるけど、かわいそうじゃない？」「去年、戌年は終わったから、サンタさんも犬は持ってないかもしれんよ。他の生き物じゃいかんの？」と、お母さんは、いろんなことを言って、さりげなくかりんちゃんを説得しています。素直なかりんちゃんは「じゃあ、他の生き物でもいいか」と渋々納得しつつある様子。二人の話を聞きながら横から口出しするお父さんは、「おう、めだかにせえ！めだかがええぞ！学校にもおるやろ！」と寝ころんだまま喜んで声を張り上げました。するとかりんちゃんは、寝転がって新聞を読んでいるお父さんを、黙って踏みつけたのでした。

イブの夜、かりんちゃんは「絶対、夜中まで起きていてサンタさんを見る」と張り切っていました。でも、お父さんと布団に入って、10時を過ぎるとすぐに寝てしまいました。今年もサンタさんには会えなかったようです。『サンタさん、かわいい茶色の豆柴をください。だめなら、ちっちゃくてかわいい生き物をください』かりんちゃんの手紙には、こう書いてありました。お父さんは「サンタさんをお願いして、約束してくるからね」とかりんちゃんと約束していました。そして、クリスマスの朝、かりんちゃんの枕元にあったものは……。



籠の中に入ったかわいい「ハムスター」でした。一緒に手紙が添えてあります。『かりんちゃん、メリークリスマス！来年はねずみ年だから、ハムちゃんを大切に育ててね』目を覚ましたかりんちゃんは、手紙を読んだ後、ふわふわした灰色のハムスターを両手で包み込むようにてのひらに乗せました。ハムちゃんは気持ちよさそうに手の中で丸まっていました。かりんちゃんはいとおしそうにハムちゃんを見つめながら「やっぱりサンタさん、おるね」とにっこり微笑んだのでした。そして、ハムスターを1,000円で買ったお父さんは、にんまりほくそ笑んだのでした。いろんな所から情報を得て、サンタさんの存在を疑い始めているかりんちゃん。「サンタさんと約束できるのはお父さんだけだよ」といつまで言えるのでしょうか。でも、約束を果たしてくれたサンタさんに、うれしそうにお礼の手紙を書いているかりんちゃんを、今年も無事見ることができ、お父さんは、ほっと胸をなでおろしたのでした。